

第 2 回

玉名市景観計画策定委員会 資料

-基礎データ-

目次

1 玉名市の人口.....	1
(1) 将来推計人口.....	1
(2) 地区別の 65 歳以上人口率.....	1
2 玉名市における景観行政.....	2
(1) 熊本県景観計画・景観条例.....	2
(2) 高瀬南部地区地区計画.....	2
(3) 玉名市高瀬地区景観形成住民協定.....	2
3 玉名市の成り立ちと地勢・土地利用.....	5
(1) 玉名市の歴史.....	5
(2) 干拓の歴史.....	5
(3) 地勢.....	6
(4) 土地利用現況.....	6
4 アンケート・ワークショップ・景観学習会.....	7
(1) -1 景観に関する市民アンケート調査：単純集計(概要).....	7
(1) -2 景観に関する市民アンケート調査：クロス集計(概要).....	8
(2) 景観ワークショップ及び景観学習会.....	9
5 景観特性.....	11
(1) 景観特性(面・線).....	11
(2) 景観特性(線・点).....	12
(3) 景観構造(断面).....	13
(4) 景観特性(伝統・行事).....	14
(5) 景観まちづくり活動.....	15
(6) 玉名市の景観特性(玉名らしい景観).....	17

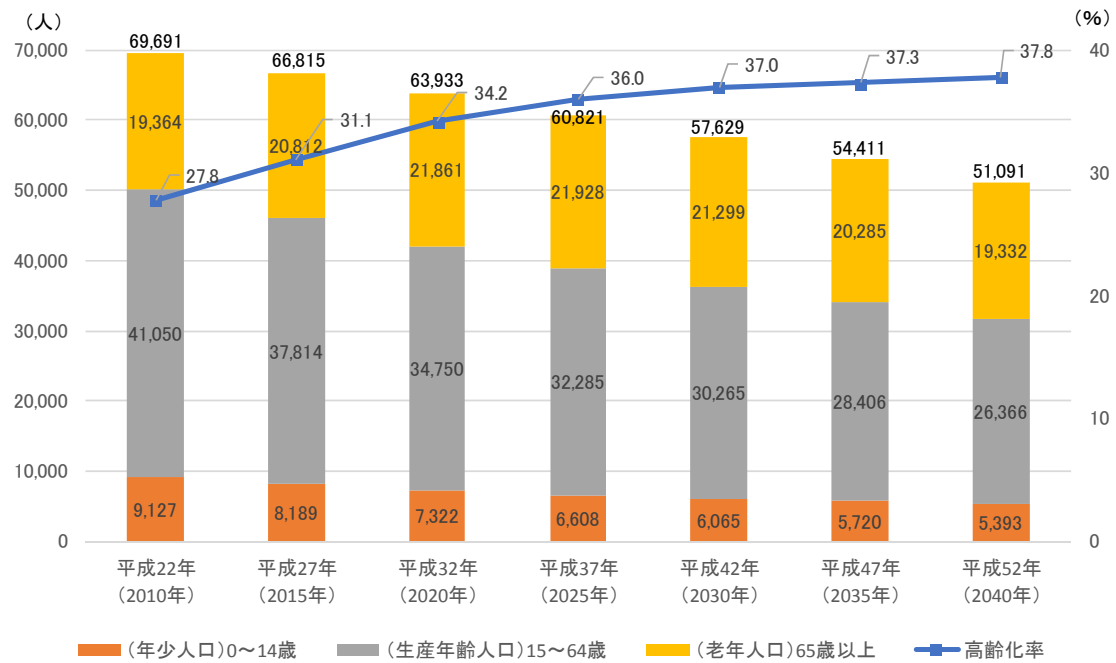
1 玉名市の人口

(1) 将来推計人口

- 国立社会保障・人口問題研究所によると今後も人口減少傾向が続くものと推計され、平成 52 年には、現状（平成 22 年：69,541 人）と比較して、18,450 人減の 51,091 人と推計されています。
- 一方、高齢化率（老年人口比率）は、年々上昇し、平成 52 年には現状（平成 22 年：27.8%）と比較し、10.0 ポイント上昇の 37.8%に達すると推計されています。

	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)	平成42年 (2030年)	平成47年 (2035年)	平成52年 (2040年)
総数（人）	69,541	66,815	63,933	60,821	57,629	54,411	51,091
（年少人口）0～14歳	9,107	8,189	7,322	6,608	6,065	5,720	5,393
（生産年齢人口）15～64歳	40,962	37,814	34,750	32,285	30,265	28,406	26,366
（老年人口）65歳以上	19,322	20,812	21,861	21,928	21,299	20,285	19,332
年齢不詳	150						
年齢別割合（%）	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年
（年少人口）0～14歳	13.1	12.3	11.4	10.9	10.5	10.5	10.6
（生産年齢人口）15～64歳	58.9	56.6	54.4	53.1	52.5	52.2	51.6
（老年人口）65歳以上	27.8	31.1	34.2	36.0	37.0	37.3	37.8
年齢不詳	0.2						

出典：国立社会保障・人口問題研究所

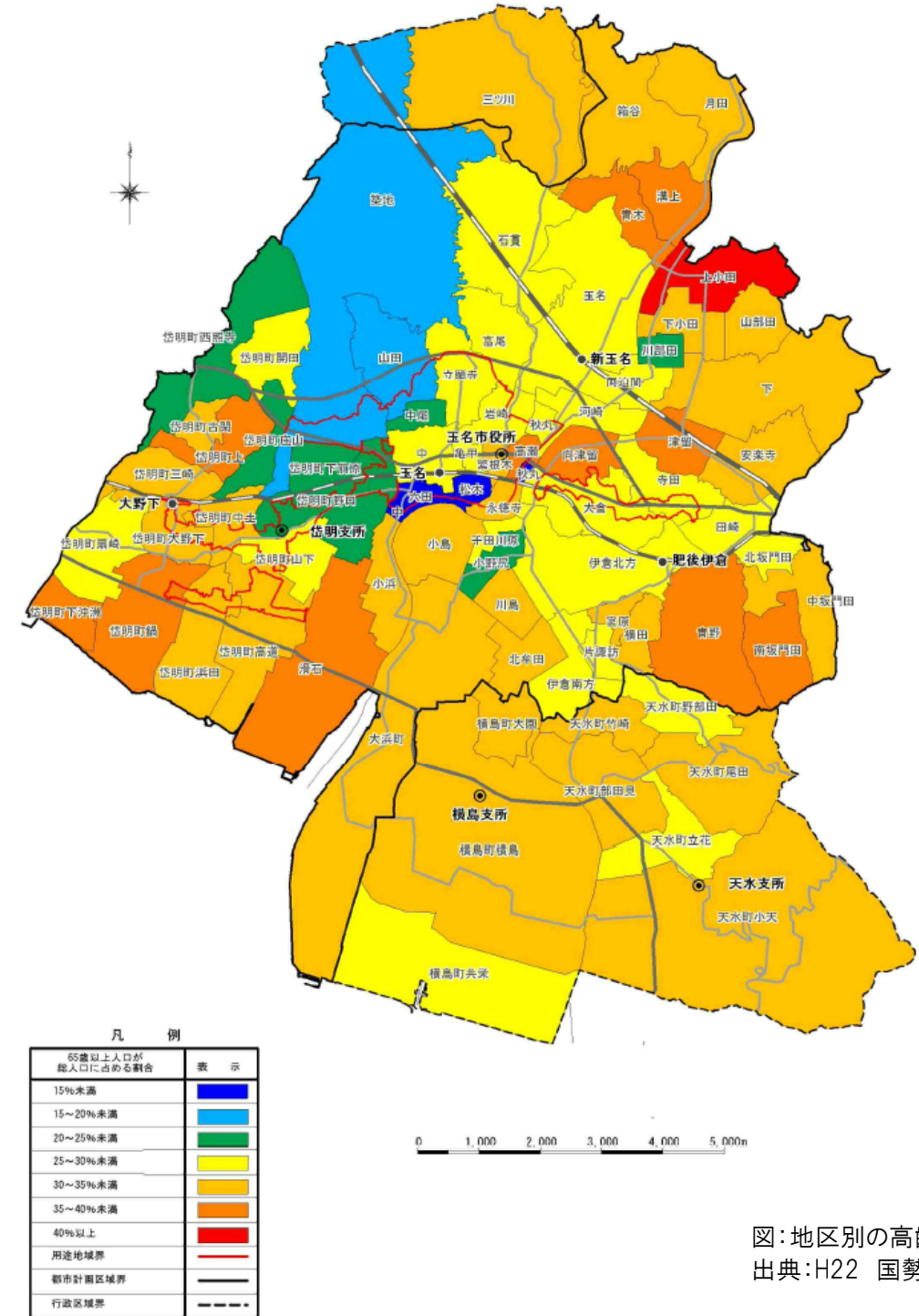


図：将来人口推計と高齢化率の推移
出典：H22 国勢調査

(2) 地区別の65歳以上人口率

- 玉名市の縁辺部の高齢化率が高い傾向となっています。

- 横島地区、天水地区、岱明地区の沿岸部において比較的高い結果となっています。



図：地区別の高齢化率
出典：H22 国勢調査

2 玉名市における景観行政

(1) 熊本県景観計画・景観条例

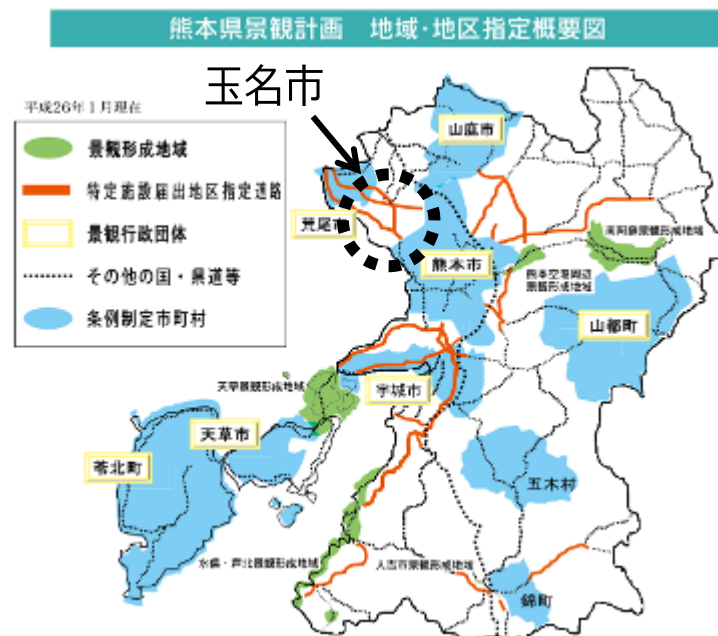
- 玉名市では、現在、熊本県景観計画及び景観条例に基づき、景観行政を行っています。
- 熊本県では、一定の大規模行為について、県全体を届出対象区域としていることから、県全域を景観計画区域（既に景観行政団体である市町村は除く）とし、景観形成地域、特定施設届出地区を設定しています。
- 県の景観形成の基本目標、景観形成の基本的視点、景観形成の方策は以下の通りです。

景観形成の基本目標	○ 熊本らしい個性ある豊かな景観を守り育てる ○ 緑豊かな潤いのある快適な景観を創る
景観形成の基本的観点	○ 自然との調和 ○ 歴史との調和 ○ ユニバーサルデザインの視点
景観形成の方策	○ 景観形成の誘・推進 ○ 景観形成に関する合意の形成 ○ 景観形成活動の促進

① 特定施設届出地区（指定道路）

- 玉名市では、「特定施設届出地区（指定道路）」が位置づけられています。具体的には、国道208号、国道208号玉名バイパス、国道501号であり、これらの道路端から20m以内にこの区域が定められています。
- この区域内での特定施設*の新築・増設・改築・色彩の変更等は、景観法第16条第1項の規定に基づく「届出対象行為」となります。

特定施設	パチンコ店、ゲームセンター、ガソリンスタンド、飲食店、スーパー、物販店、ホテル、広告塔、広告板等
------	--
- 当区域にて、景観形成基準が定められています。



② 大規模行為

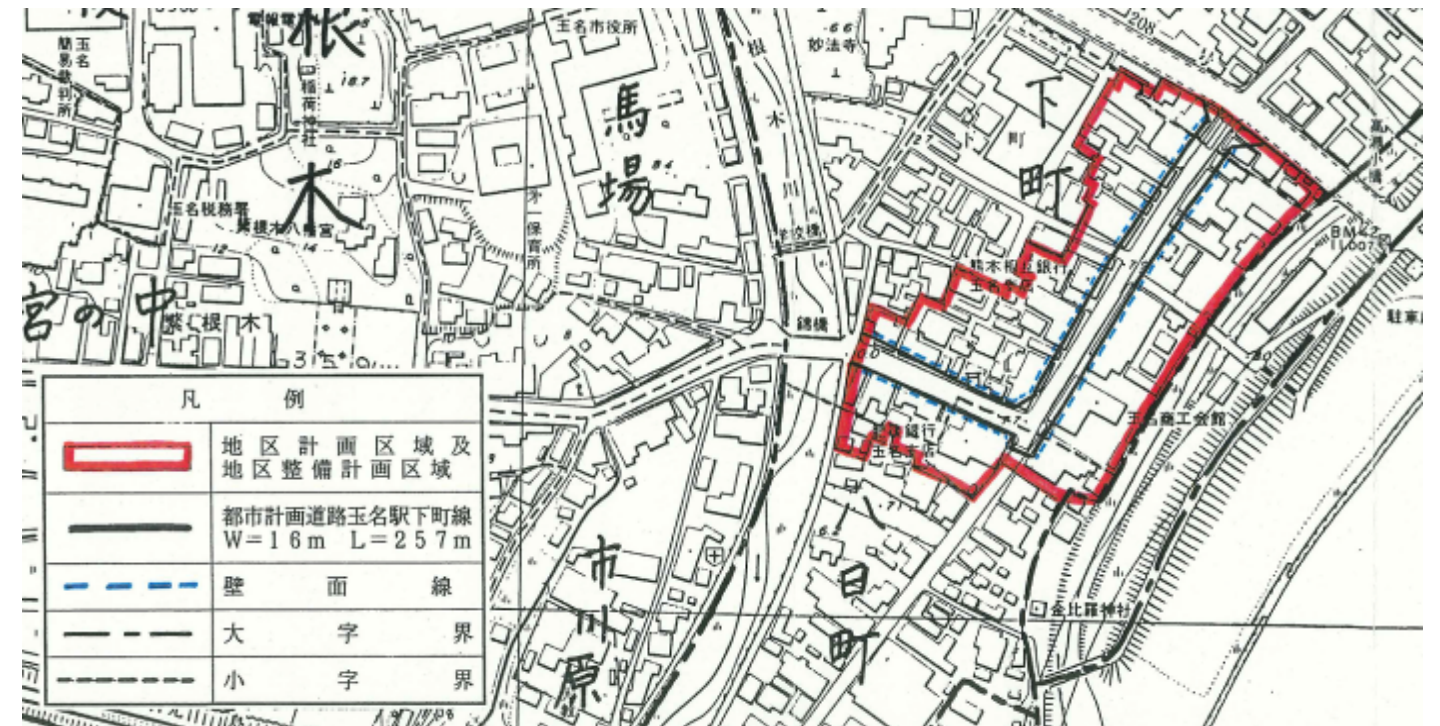
- 以下の行為が届出対象行為となっています。

建築物	高さ13mを超えるもの、または、建築面積1,000㎡を超えるもの
工作物	高さ13mを超えるもの、または、土地の面積1,000㎡を超えるもの
さく及び堀	高さ2mかつ長さ50mを超えるもの
土地の区画形質の変更	変更に関わる部分の面積3,000㎡を超えるもの、または、高さ5mかつ長さ10mを超えるもの

- 当該行為について景観形成基準が定められています。

(2) 高瀬南部地区地区計画

- 玉名市では、高瀬南部地区にて地区計画を定めており、区域の整備・開発及び保全の方針（地区計画の目標、土地利用の方針、建築物等の整備の方針）、地区整備計画（建築物の用途の制限、壁面の位置の制限、建築物の形態又は意匠の制限、その他工作物の制限）を規定しています。
- 特に景観に係る建築物の形態又は意匠の制限では、「建築物の屋根及び外壁等又は工作物は、歴史ある商店街として美観を損なうような色彩又は装飾を用いてはならない。」と定めています。



(3) 玉名市高瀬地区景観形成住民協定

- 江戸・明治期の古民家が集まる玉名市高瀬地区の街並みを保存するため「玉名市高瀬地区景観形成住民協定」がまとめられ、平成20年10月17日に県から認定を受けました。
- 当地区では、高瀬地区を活性化させようと懇談会を開催し、崇城大学の学生や玉名市職員を交えて意見交換し、街並み保存のための自主的な統一基準として住民協定が作成されました。
- 協定は建築物を木造2階建てとし、壁はしっくいや木で仕上げることを規定。屋根を瓦ぶきにし、自動販売機や看板は軒先より内側に設置することなどを明記しています。



3 玉名市の成り立ちと地勢・土地利用

(1) 玉名市の歴史

① 古代-中世

- 玉名地方は、縄文時代から恵みの地であり、弥生時代中期以降には、高岡原遺跡、塚原遺跡、大原遺跡等から大規模な集落が営まれていたことが分かっています。古墳時代になると、玉名平野を取り囲むように山下古墳や藤光寺古墳等が築かれます。また、6世紀には、鮮やかな色彩を持つ装飾古墳が菊池川下流域に広がり、本市の特徴となっています。
- 弥生時代・古墳時代には早くも大陸と交流を持ち、その後、荘園の発達とともに産業が興り、社寺等が造営され、この地方の中心として基礎がつけられました。
- 戦国時代になると、諸大名の争奪の地となり焦土と化しましたが、加藤清正が入国して、治水と干拓に力を入れ、広大な新田を得て当地方は穀倉地帯として人口も増加しました。細川 54 万石の統治下になると、文化・経済・商業の中心地として繁栄を極めました。

② 近世

- 高瀬のまちは、熊本藩の重要港湾であり国際貿易港でもある港町として栄え、藩庫として高瀬御蔵、御茶屋が置かれ、早くからまちの形成が行われた商人のまちでした。鎖国のあと貨幣経済が浸透し、肥後から全国一の 40 万俵の米を大阪に積出すようになると、その半分の 20 万俵を高瀬港から送っていました。そのなかで、高瀬裏川が菊池川から高瀬町に至る重要な運河の役割を果たしていました。
- 文化年間（1804～1817）以降は干拓が盛んに行われ、横島で細川藩家老の有吉家が中心となって大規模に干拓事業を行ったほか、有明海沿岸で多くの耕地が拓かれました。

③ 近代

- 高瀬藩が置かれ武家屋敷が整備されました。しかし、藩は廃藩置県によりなくなり、武家屋敷も現在ではほとんど残っていません。
- 明治 10 年の西南戦争では高瀬が戦場となり、まちの半分は火災等により焼失し、主要な施設が失われ、高瀬の港としての機能は大幅に失われましたが、地域の拠点として復興しました。
- 明治 24 年には九州鉄道が開通し、流通手段は水運から鉄道へと移行します。
- 明治 20 年から 30 年代には、地元の有力者（大地主）による大規模な干拓事業が進みました。横島町や岱明町にて耕地が拓かれていきました。

④ 現代

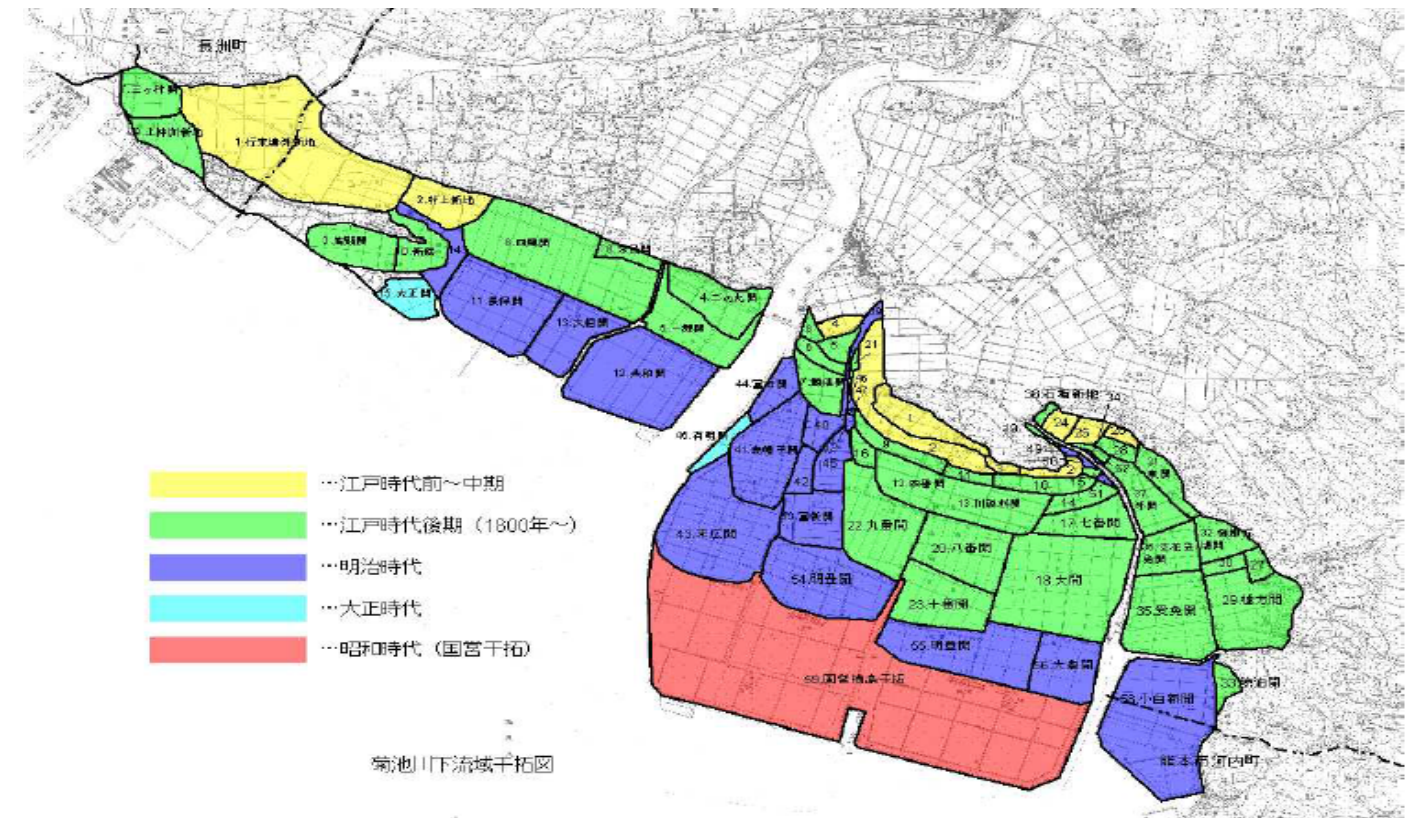
- 度重なる台風や梅雨の時期には、菊池川がはん濫、多くの犠牲を払ってきました。そのため、川岸はかさ上げされ、大洪水のあった玉名平野には、官公庁舎が建ち、玉名駅の南側のかつて湿地帯であった場所は、住宅地として造成することができるようになりました。
- 自動車交通の発達とともに、国道 208 号、国道 501 号が整備され、交通の要衝としても栄えてきました。
- 交通の利便性や農業生産、豊富な人材を背景に、伝統を持つ海苔加工を始め、近年は自動車関連などの工業生産も盛んです。また、玉名温泉、小天温泉など良質な温泉にも恵まれ観光資源となっ

います。

- 平成 23 年 3 月 12 日の九州新幹線の全面開通にあわせて新玉名駅が開業し、新たな玄関口ができるとともに、新市街地がつけられ、県北の要としての位置にあります。

(2) 干拓の歴史

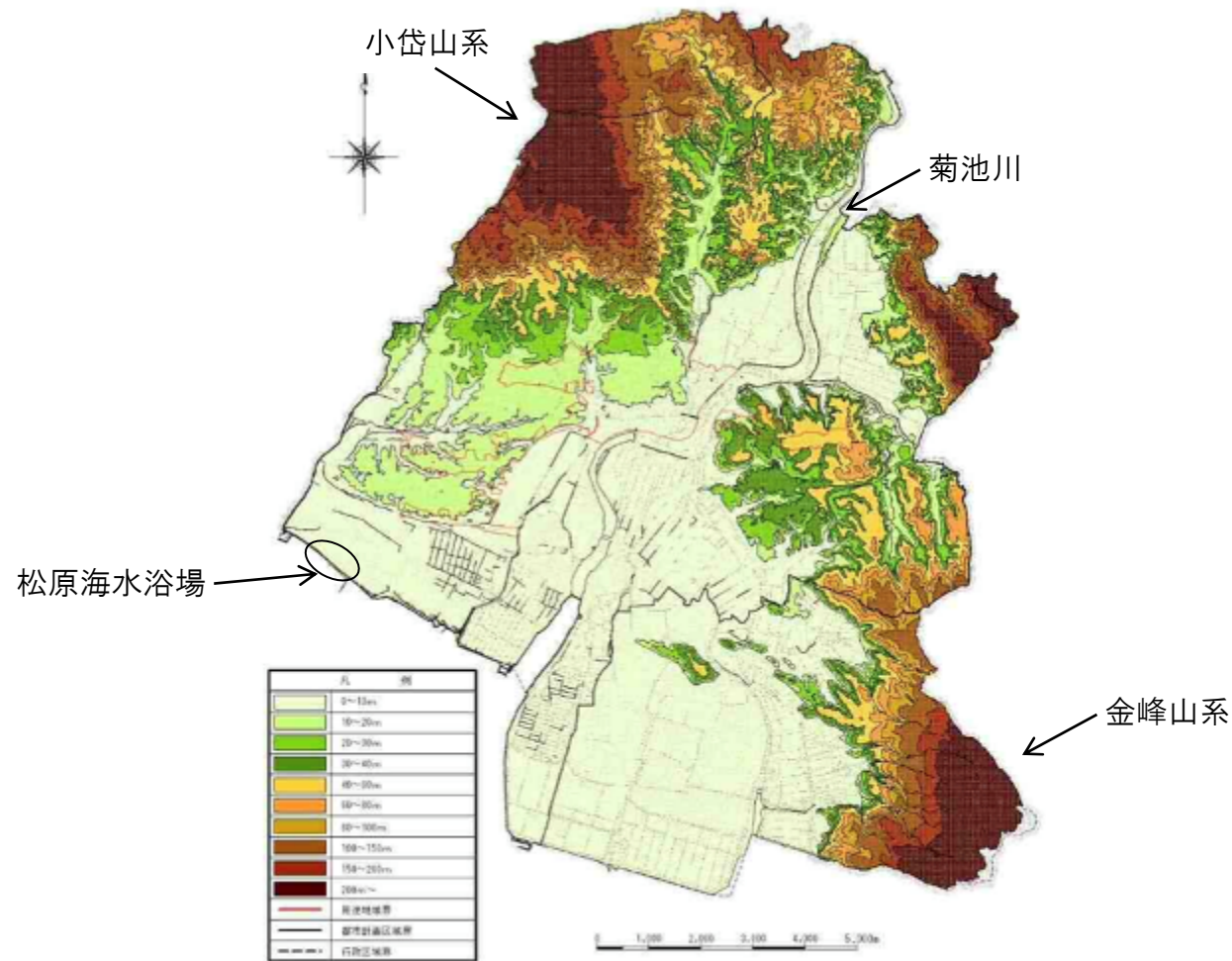
- 江戸時代から干拓が盛んに行われ、昭和の国営横島干拓まで 75 ヶ所の干拓地が拓かれました。最も古い干拓地は清正の時代から、最も新しい干拓地は昭和 42 年（1967 年）であり、約 330 年かけて築造されました。
- 干拓とともに整備された干拓堤防は、明治時代中期から昭和時代後半まで長期にわたって、潮害から干拓地を守り抜いてきました。明治時代に起源を持つ干拓堤防が、現在の規模・状態で総延長約 5km にわたって残っている例は他にはなく、日本の産業の近代化に貢献した遺産として、また土木学的にも優れた建造物として、さらに農地を含めた風景は、歴史的にも重要な文化的景観として、大きな注目を集めています。大浜町、横島町に所在する、明治時代に建造された干拓関連施設が、「旧玉名干拓施設」として平成 22 年 6 月 29 日に国の重要文化財に指定されました。
- 新たに築造された土地は、大部分が水田として利用され、昭和 40 年代からはビニールハウスを利用した施設園芸が盛んになり、トマトやイチゴの生産が行われ、国内有数の産地となりました。



図：干拓の歴史

(3) 地勢

- 本市は熊本県北西部に位置し、南北の距離は約 17km、東西は約 14.5km、市域の面積は約 152 平方キロです。
- 菊池川は、流域の大地をうるおし、古墳文化を开花し、豊かな温泉が人々の心を安らかにしてくれる生活を支えてきた恵みの川であり、本市は、菊池川の恩恵を受けて繁栄してきました。菊池川が運んだ土砂による広大な干潟は、豊かな生態系を育み、海苔やアサリなどの水産業が盛んに行われています。
- 菊池川と市の中心部を挟んだ北側には、小岱山系の山々と麓の丘陵地帯の濃い緑が見られます。また、市東南部の天水地区では金峰山がそびえ、その西麓にはなだらかな丘陵地帯が広がっており、柑橘類の栽培が盛んです。
- 広大な干拓地は豊かな穀倉地帯であり、本市の主な作物は米、麦が中心で、イチゴ、トマトなどの施設園芸が行われています。
- 小岱山の麓には 1300 余年の歴史と泉質の優秀さを誇る玉名温泉を有しています。市の南部、有明海を望むみかん園の裾野にある小天温泉は、夏目漱石の名作「草枕」の舞台としても知られています。
- 海辺には熊本県北唯一の松原海水浴場があります。



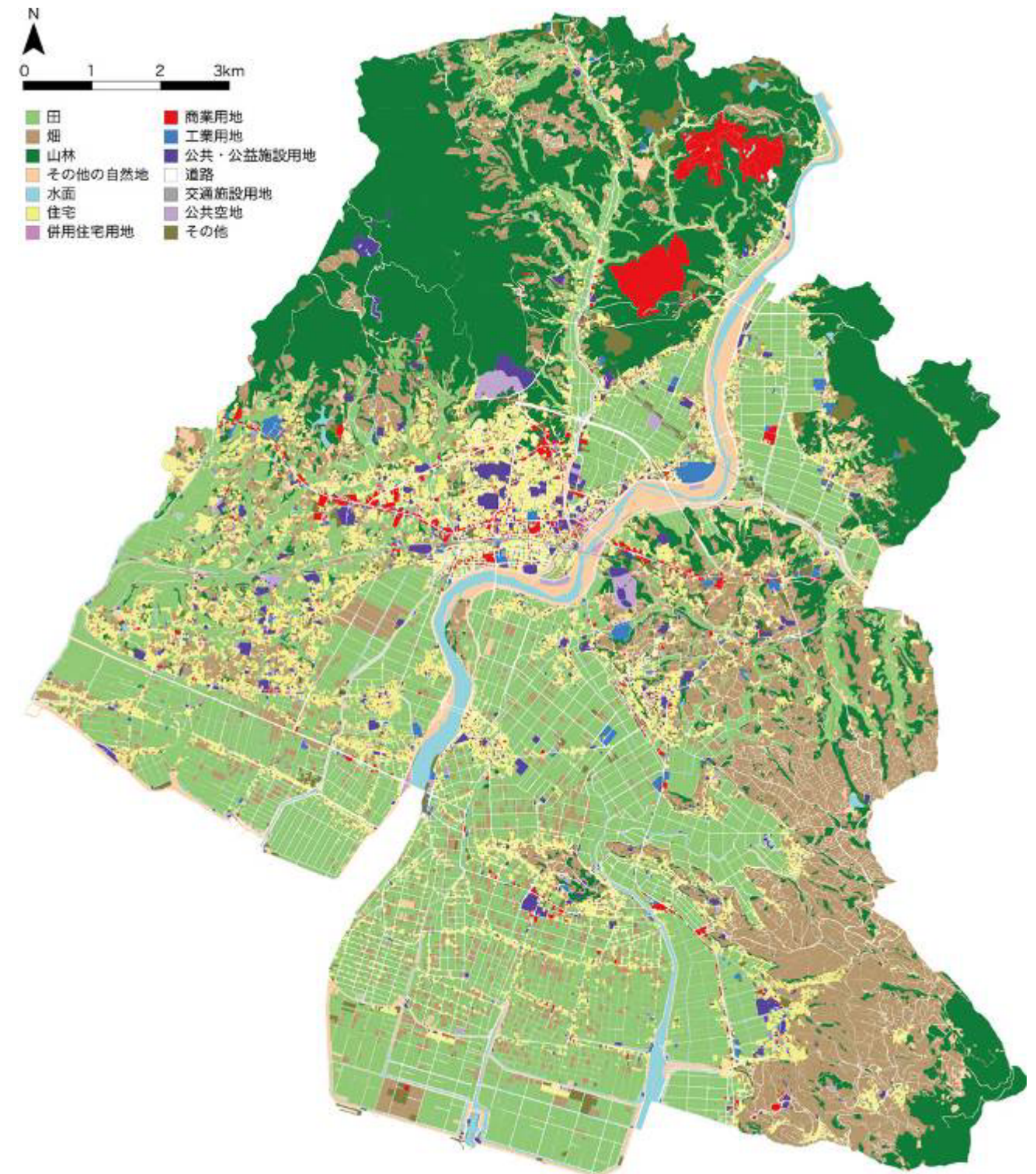
図：玉名市の地形(標高)

(4) 土地利用現況

- 田と畑で市域面積の約半数を占め、自然系面積は市域面積の約 8 割を占めています。

自然系					人工系								その他
田	畑	山林	その他の自然 地	水面	住宅	併用住 宅用地	商業 用地	工業 用地	公共・公 益施設 用地	道路	交通施 設用地	公共 空地	
4,641	2,784	3,339	685	435	1,325	40	275	112	259	815	57	67	323
30.7%	18.4%	22.0%	4.5%	2.9%	8.7%	0.3%	1.8%	0.7%	1.7%	5.4%	0.4%	0.4%	2.1%

上段の単位：ha



図：土地利用現況図

4 アンケート・ワークショップ・景観学習会

(1) -1 景観に関する市民アンケート調査：単純集計（概要）

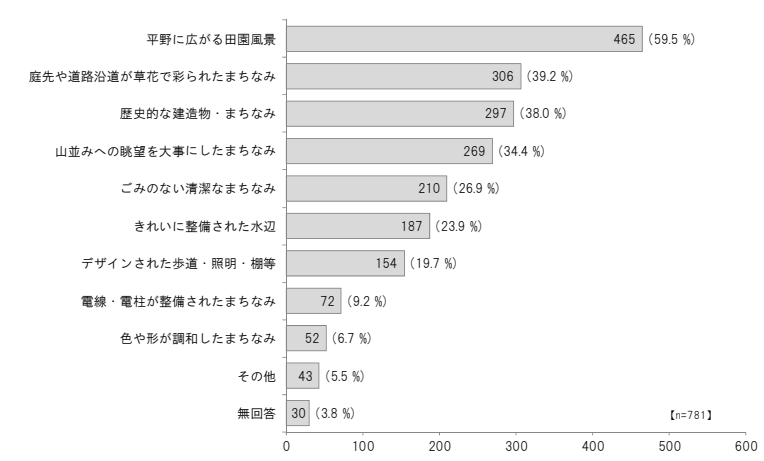
① 実施概要

対象者：玉名市内に在住の市民 2,000 人
 実施日：平成 25 年 9 月 20 日～平成 25 年 10 月 11 日
 回収数・回収率：配布 2,000 通 回収数 781 通 回収率 39.1%

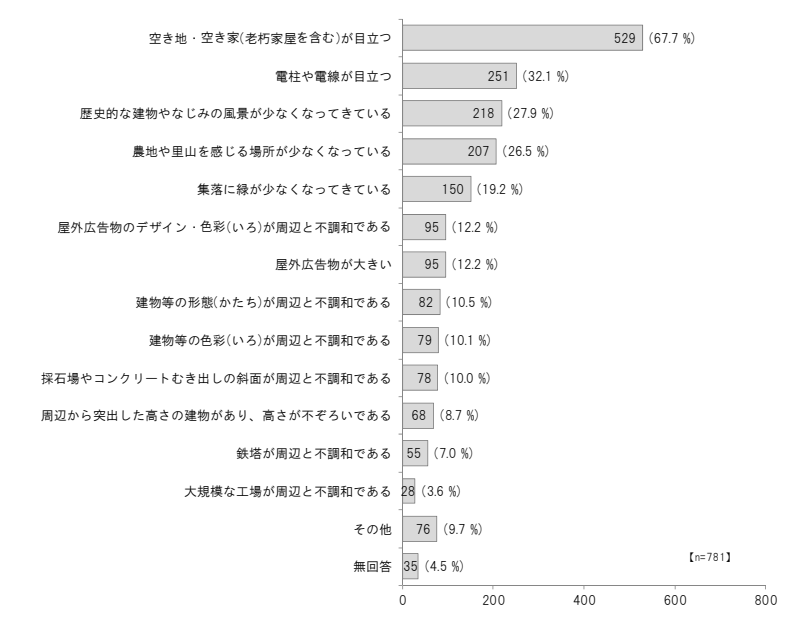
② 結果概要

- まちなみや自然の景観について、ふだんから気になる人は 3 割となっています。
- 玉名市の景観について、「自慢できる景観である（一部含む）」意向が 66.5%である一方で、「自慢できる景観はあまりない」や「全く自慢できる景観ではない」は 25.9%あります。また、「景観について考えたことがない」は 6.3%でした。
- 玉名市のまちなみや自然の風景は、以前（10 年～15 年前）と比べると、「少し良くなった」、「変わらない」は 49.6%であり、（少し）悪くなったという意向は 15.5%となっています。
- 良い景観は「平野に広がる田園風景」、「庭先や道路沿道が草花で彩られたまちなみ」、「歴史的な建造物・まちなみ」であり、自然景観や歴史的なまちなみを良いと感じています。一方で、悪い景観と感じているのは「空き地・空き家(老朽家屋を含む)が目立つ」、「電柱や電線が目立つ」、「歴史的な建物やなじみの風景が少なくなっている」となっています。
- 良好な景観づくりに向けて、守り育てるべき重要な場所は、「九州新幹線新玉名駅周辺」、「玉名温泉街のまちなみ」、「裏川水際緑地(花しょうぶ・石橋・石垣含む)」となっています。
- 玉名らしい景観は、「情緒豊かな温泉街」、「広大な田園風景」、「市内を雄大に貫く菊池川」の温泉街と自然・田園景観であると感じています。
- 景観づくりのルールとしては、「全市的に緩やかなルールを設け、重要地区についてきめ細やかなルールを設ける」意向が強く、「住宅や店舗等の敷地の緑化」、「建物等デザイン、色彩（いろ）、素材」に対するルールが必要であると感じています。
- 建物等の色彩（いろ）について、日常生活で不快感を覚えた回答者は 4 割あり、特に「道路上や店舗前の立看板、のぼり等」に不快感を覚えています。

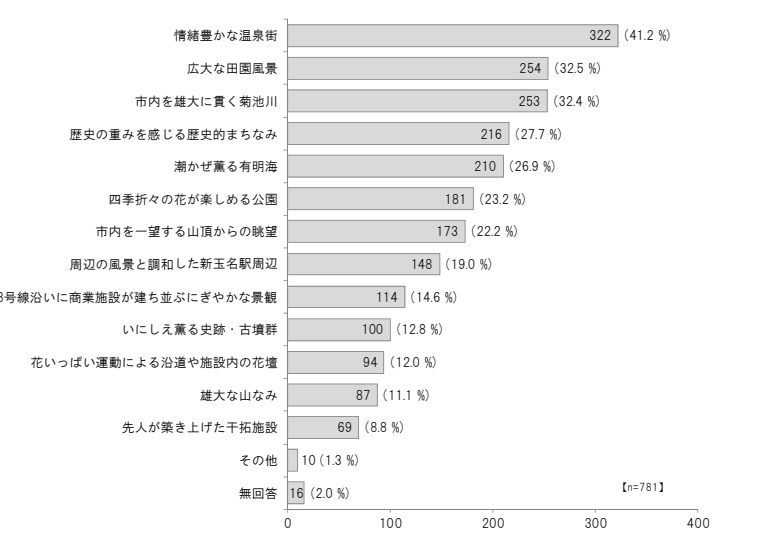
良い景観



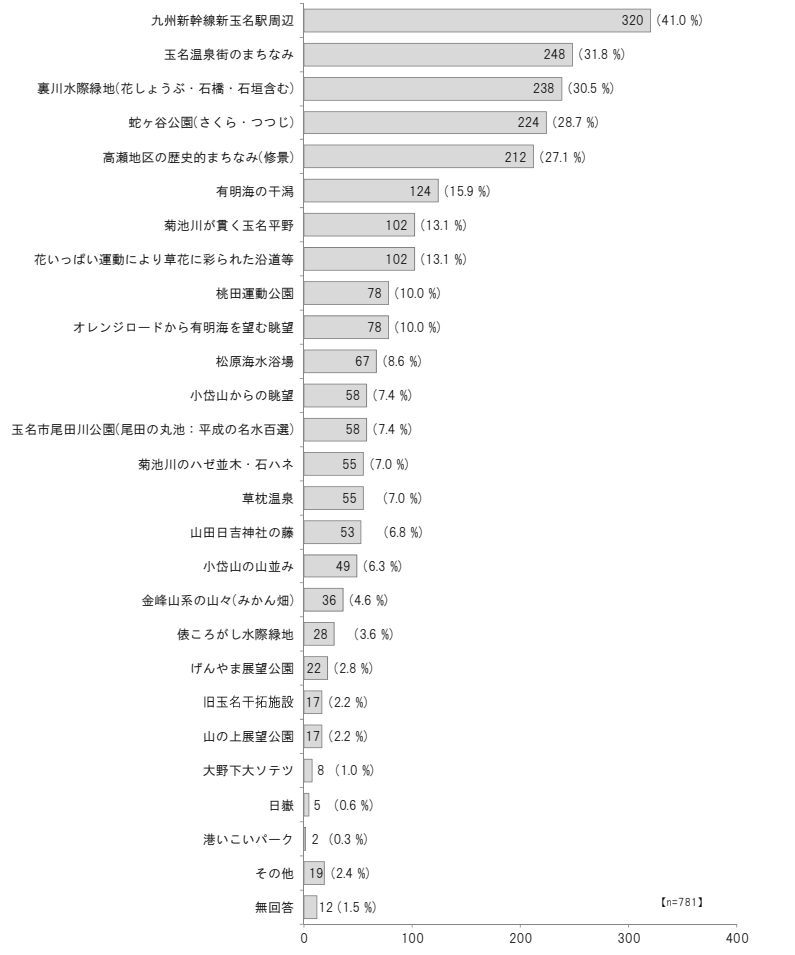
悪い景観



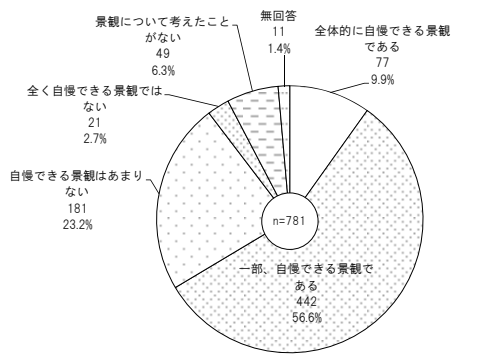
本市らしいと思う景観



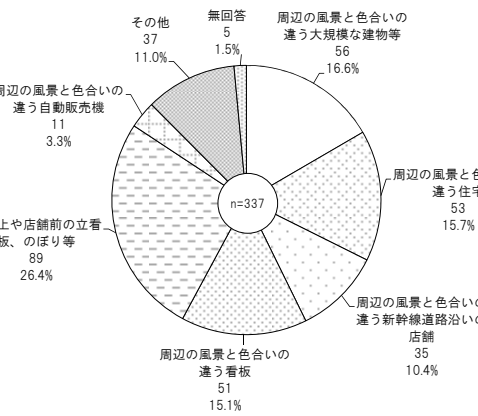
守り育てるべき重要な場所



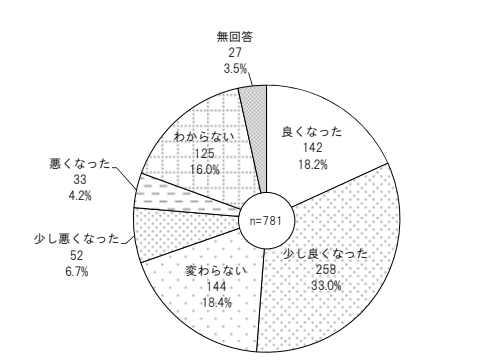
本市の景観の印象



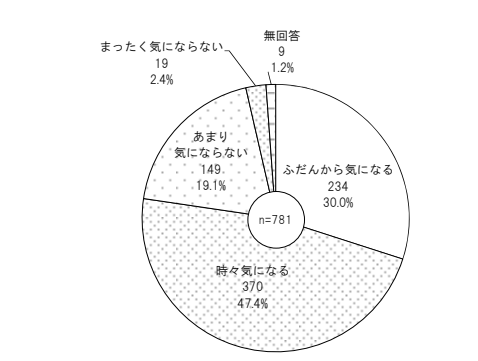
色彩に不快感を覚えたもの



新玉名駅周辺地区の景観の印象



ふだんから景観を気にしているか



(1) -2 景観に関する市民アンケート調査：クロス集計（概要）

① 結果概要（※文中の頁はアンケートクロス集計報告書を参考）

■「住まいの地域」とのクロス集計

- 【Q10】とのクロスにおいて、玉名地域、岱明地域、横島地域では、良好な景観づくりに向けて「九州新幹線玉名駅周辺」を守り育てるべきとする意向が強くなっています。一方、天水地域では、「オレンジロードから有明海を望む眺望」を守り育てるべきとする意向が強くなっています。
(P.23)
- 【Q11】とのクロスにおいて、玉名地域、岱明地域は「情緒豊かな温泉街」、横島地域は「潮かぜ薫る有明海」、天水地域は「広大な田園風景」が玉名らしい景観だとする認識が強くなっています。
(P.24)
- 【Q20-2】とのクロスにおいて、全ての地域で「公共施設（道路、河川、建物など）の整備・質の向上を図る」取り組みが必要だとする認識が強くなっていますが、横島地域、天水地域では、併せて「重要な地区を指定して、その地域にあった取り組みを重点的に進める」取り組みが必要であるという認識も同様に強くなっています。
(P.34)

■「居住年数」とのクロス集計

- 【Q5】とのクロスにおいて、居住期間が1年未満では、まちなみや自然の景観が「ふだんから気になる」と回答する割合が高くなっています。居住期間が1年以上の回答者は「時々気になる」と回答する割合が高くなっています。
(P.35)
- 【Q13】とのクロスにおいて、居住期間が30年未満では、玉名市らしい景観づくりを進めるために「建物等のデザイン、色彩（いろ）、素材」のルールが必要だとする認識が最も強くなっています。居住期間が30年以上では、「住宅や店舗等の敷地の緑化」のルールが必要だとする認識が最も強くなっています。
(P.43)
- 【Q18】とのクロスにおいて、居住期間が1年～30年未満では、新玉名駅周辺について、「近代的な商業施設が建ち並ぶにぎやかなまちなみ」景観が望ましいとする意向が最も強くなっています。1年未満、30年以上では、「周囲の田園景観や学校等に配慮した施設が建ち並ぶまちなみ」景観が望ましいとする意向が最も強くなっています。
(P.48)

■「景観への意識」とのクロス集計

- 【Q6】とのクロスにおいて、「ふだんから気になる」「時々気になる」「あまり気にならない」と答えた回答者については、玉名市の景観について「一部、自慢できる景観である」という回答が多くなっています。「まったく気にならない」と答えた回答者については、「景観について考えたことがない」という回答が多くなっています。
(P.52)
- 【Q7】とのクロスにおいて、「ふだんから気になる」「時々気になる」「あまり気にならない」と答えた回答者は、玉名市の自然景観やまちなみについて、以前と比べ「少し良くなった」という認識が強くなっています。「まったく気にならない」と答えた回答者は、「良くなった」という認識が強くなっています。
(P.53)
- 【Q16】とのクロスにおいて、「ふだんから気になる」と答えた回答者は「景観形成上、重要な区域に限り制限し、一般的な地域は極端な色彩（いろ）のみを制限する」べきという意向が強くなっています。「時々気になる」「あまり気にならない」「まったく気にならない」では、「極端な色彩（いろ）のみを制限すべきでは個人の良い良識にまかせるべき」という意向が強くなっています。
(P.62)
- 【Q18】とのクロスにおいて、「ふだんから気になる」と答えた回答者は、新玉名駅周辺について、「周囲の田園景観や学校等に配慮した施設が建ち並ぶまちなみ」景観が望ましいとする意向が最も強くなっています。また、「時々気になる」「あまり気にならない」「まったく気にならない」では、「近代的な商業施設が建ち並ぶにぎやかなまちなみ」景観が望ましいとする意向が最も強くなっています。
(P.64)

(2) 景観ワークショップ及び景観学習会

① 景観ワークショップの結果まとめ

景観類型	主な良い景観	主に気になる景観
自然景観	<ul style="list-style-type: none"> 山・川・海全ての自然景観が揃っており、すばらしい景色を眺めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ（不法投棄）、雑草、竹等の管理・手入れが行き届いていない。 土砂等の採取後が景観を損ねている。
田園等景観	<ul style="list-style-type: none"> 広大な農地が美しい。 みかん畑の段々畑が素晴らしい。 動植物、里山の風景が残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 荒れ地や耕作放棄地が景観を損ねている。 みかん畑の石積みが消えていっている。 太陽光発電が景観を邪魔している。
道路沿道景観	<ul style="list-style-type: none"> 地域の努力により、幹線道路沿道の木や花がきれい。 新しいバイパスは手入れされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 派手な看板が多い。 草木や雑草の管理が行き届いていない。 景観に連続性や特徴がない。
市街地景観	<ul style="list-style-type: none"> 高瀬裏川周辺の景観がよい。 新玉名駅周辺の整備に期待を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 派手な看板が多い。 空き店舗が多く活気がない。 温泉街の情緒がない。 新幹線駅周辺が殺風景であり、PR不足である。 街並みに統一感や特徴がない。
歴史・文化景観	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な史跡等が多く残っている。 干拓堤防と干拓地の風景がよい。 民俗芸能や祭が残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的資源があるが生かしきれていない。 伊倉町の下地中分の認識不足。



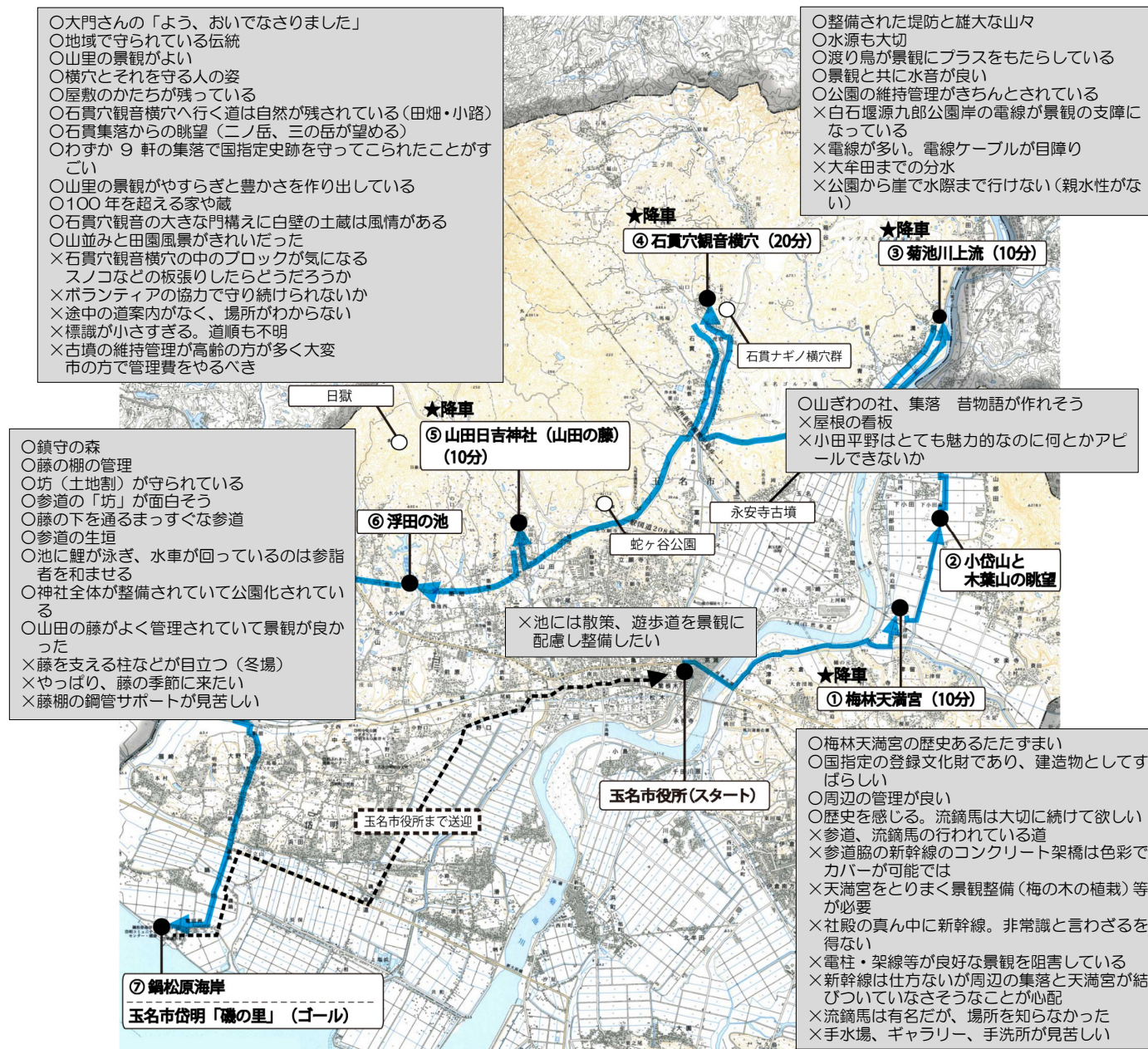
② 景観学習会（第1回：南部）の結果まとめ



時間の都合上、市の南部を中心にバスツアーを行いました。守りたい景観として歴史、自然、市街地の景観などさまざまなものがあげられる一方で、維持管理面や魅力を高めるための工夫が必要という課題が見えてきました。

守りたい景観	気になる景観
<ul style="list-style-type: none"> ●歴史的な資源 <ul style="list-style-type: none"> 高瀬裏川の江戸時代からの歴史を思わせる石垣、石橋 何度も何度も補修されてきた石積みの堤防 等 ●自然景観、田園景観 <ul style="list-style-type: none"> みかんの段々畑、石積み 秋の黄金色に輝く稲穂、田園風景 二ノ岳、三ノ岳の眺望 等 ●市街地景観 <ul style="list-style-type: none"> 田園の中の新玉名駅 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●維持管理が必要 <ul style="list-style-type: none"> 沿道の廃車・廃品、古くなった空き家 雑草を取り除き5kmにわたる堤防をきれいにしてもらいたい 雑草が多く手入れが必要 等 ●統一感、一体感が必要 <ul style="list-style-type: none"> 原色を用いた様々な看板、統一感がない 歴史的景観の中に現代の建物が目立つ 店によってはのぼり旗が乱立 等 ●認知度を高めることが必要 <ul style="list-style-type: none"> 誰も知らない語の装飾がし ハゼの木が植えられた経緯、歴史の物語をもっと知ってもらわねば 等
	<ul style="list-style-type: none"> ●魅力を高める工夫、演出が必要 <ul style="list-style-type: none"> 裏川の照明に工夫を 温泉街入口がわからない 温泉街のそぞろ歩き空間づくり 等 ●生活と一体的に考えることが必要 <ul style="list-style-type: none"> 休耕山があり雑草の手入れが必要 耕作放棄地きれいにならなければ... 新玉名駅には人の気配がなかった 閉店している店が多い 等 ●資源の連携が必要 <ul style="list-style-type: none"> 玉名をアピールする駅前と景観温泉地との連携 高瀬裏川と商店街の連携空間で活性化 等

③ 景観学習会 (第2回:北部) 意見



④ 景観学習会 (第3回)

堀 繁氏 (東京大学 アジア生物資源環境研究センター長・教授) の公演概要

◇景観とは何か
・景観とは見ること：見て理解の手がかりを得ることで、地域を理解する行為が景観である。
そのため、瞬間的にその地域の評価がなされる。

- ◇良い景観とは
- ・(見たいもの)が(見やすい)状態にある
 - ・(見たくないもの)が(見えない)状態にある
- ◇悪い景観とは
- ・(見たいもの)が(見にくい)状態にある
 - ・(見たくないもの)が(見える)状態にある

- ①他のものに邪魔されないこと
- ②見えの大きさが程よいこと
- ③最も見たいものが一番大きいこと

- ◇人は何を見るのか
- ①理解の手がかりを探すため
 - ②ホスピタリティ表現
 - ③その人の興味を引くもの(人によって異なるため景観の対象としない)

特に「ホスピタリティ表現」、おもてなしの形、「あなたのことを大事にしますよ」という表現が重要
⇒建物の良い悪いと景観の良い悪いは異なり、良い建物でもホスピタリティ表現が重要(のれん、ベンチ、開放された入り口など)
⇒あなたのことを歓迎しないという表現はマイナスになる(壁、ガラス戸、垣、塀など)
⇒沿道整備の場合は、1階部分、入り口の舗装など人の視点から見える範囲にホスピタリティ表現をすることが重要。

今回も第1回のバスツアーと同様に市内には様々な景観資源があることがわかりました。
一方で、維持管理の不足している場所や周辺のしつらえ、景観を守るためには、人々の努力が必要であることが見えてきました。

良い景観	気になる景観
<ul style="list-style-type: none"> ●歴史的な資源 ・梅林天満宮の歴史ある行まい ・流鏝馬 ・100年を超える家や蔵 ・日吉神社に至る参道の「坊」等 ●自然景観、田園景観 ・菊池川上流の景観、渡り鳥 ・石貫からの二ノ岳、三ノ岳の眺望 ・山里の景観 ・鍋松原海岸からの眺望 等 ●地区毎の努力 ・地域で管理している石貫穴観音 ・源九郎公園の維持管理 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●案内不足 ・石貫穴観音横穴までの標識が小さく、道順も不明 ・梅林天満宮の流鏝馬の場所を知らない ・鍋松原海岸までの交通アクセスが悪い等 ●電線・電柱など ・源九郎公園の電線 ・梅林天満宮から見える電柱・架線 等 ●維持管理 ・石貫穴観音の維持管理。高齢の方が多く等 ●工作物、屋外広告物 ・藤棚の鋼管サポートが見苦しい ・石貫穴観音の横穴の中のブロック ・屋根の看板 等 ●景観整備 ・梅林天満宮に梅の木を植栽する ・梅林天満宮参道脇の新幹線のコンクリート架橋を色彩でカバーする ・白石堰 公園から崖で水際まで行けない ・浮田の池に散策、遊歩道を整備 等



